

法親寺新聞

2014年 秋彼岸号
手書き新聞 No.14

こんにちは。釋 紗音です。秋のお彼岸がやってきます。
以前にも新聞に書きましたが、彼岸とは『浄土』をさす言葉ですね。
浄土とは、どんなところなのでしょう？ 私達もいつかは命が終わり
阿弥陀様に救われて、浄土に往生させていただく日が来るのですから、
浄土を知ることとはとても大切なことです。

- 皆様がご存知の『仏説阿弥陀經』には、浄土の様子が書かれています。
- ・建物や並木が宝石で飾られていて、宝石で出来た池の中には金の砂が敷かれ、八つの功德のある水が満ちている。
 - ・池の中には青、黄、赤、白色の蓮華が光り輝いて、清らかな香りを漂わせている。
 - ・建物や階段も、金、銀、瑠璃、水晶で出来ていて、音楽が奏でられている。
 - ・食事や運動も出来て、色とりどりの珍しい鳥が、美しいさえずりを聴かせてくれる。

全部ではありませんが、少しまとめてみました。
こんな素敵なお場所に、ご先祖様や大切な人は住っているのですから、
心配したり、不安に思ったりしなくていいのです。
私達が亡き人の幸せを願うのではなく、亡き人が私達に仏法を聴聞して
自分自身と向き合い、日々を大切に生きる様に教えてくださっているのです。
皆様は、先に仏となった方々と浄土で再会した時、今の自分で胸を張って
会えますか？

お彼岸を機に、西方浄土についてゆっくり考える時間を作ってみましょう。



部屋から見える海は
とても美しかったですー!!



頑張って早起きして、
朝日を見ました。



途中で「鳴門」にも寄り
ました。波の流れが面白い。



部屋の露天風呂からは、
海、夜は満天の星空が♡



今回は
淡路島
と
徳島県
ですー!!



質問は
紗音
までー!!

住職の法話

仏教の言葉に同治と対治という言葉があります。

これは、発熱に対して氷で冷やして熱を下げるのが、対治で、温かくて汗を
充分にかくして熱を下げるのが同治。悲しみにある人に元気をだせと励ますのが、
対治。共に泣くのが同治。同治の方が対治より効果がある場合が多いよう
にも、思いますが、果たして私たち凡夫に同治ができるのでしょうか。気の毒
であるとは思っても、心のどこかで、悲しい事実が自分であってよかったとの
思いはしないでしょうか。煩悩に振り回され、怨みや妬みを断ち切ることの
出来ない私たちに、対して仏様の慈悲はどんなことであろうと見捨ては
しないの馬鹿げ過ぎのない救いなのです。



阿弥陀様のあたにか、慈悲の中にいる私であることを
よろこび、お彼岸に際し、お念仏いたしましょう。
南無阿弥陀仏



Q... 何故冥福を祈らないのですか？

A... テレビで誰かが亡くなった時、通夜や葬儀の
お悔やみ。当たり前のように『ご冥福をお祈りします』という
言葉を聞きます。『ご冥福をお祈りします』とは、簡単に言うと『死後の世界での
幸せを祈っています』という意味になります。

しかし、命が終わると共に阿弥陀様に平等に救われ、仏となって極楽浄土へ往
くことができる浄土真宗では、もちろん冥福を祈る必要はありません。
『安らかに眠りください』も、よく聞く言葉ですが、浄土真宗ではこちらも使いま
せん。何故なら、仏になった方々は、眠る暇なく南無阿弥陀仏の阿弥陀様
と共に、いつも私達を側で見守りながら、少しでも多くの仏縁を授ける為に
働かれていますからです。

お知らせ

秋季永代経法座

日時 ● 平成26年10月23日(木)
午後1時～3時頃まで

場所 ● 法親寺本堂 ● 講師 ● 住職



お待ち
して
おります